

令和8年度島根県立大学短期大学部
学校推薦型・総合型選抜 社会人・学士 帰国生 私費外国人留学生特別選抜
保育学科 小論文問題

【問題】

次の文章は発達障害のある子を持つ女性が SNS に投稿した内容である。

息子にブチギレもう一緒に死にたい
どうすんだよこのバケモノどうやったって普通に馴染めるわけねえだろ
何が療育だよこんなに苦労して勝ち取った療育や制度も全く意味ない
一生人様に迷惑かけて生きていく息子とこの先一生謝罪しながら生きていく私
終わった
もう人生終わりだよ

以下の文章は、発達障害のある息子を持つ母親の SNS への書き込みに対する子育てへの批判と共感の紹介に加え、筆者の投稿主への取材、そして発達障害の子どもを育てた経験者とともに子育てのあり方を模索した内容になっている。この文章を踏まえ、今日の子育ての実際に対し、保育者として求められる子育て支援はどうあるべきなのか、ふさわしい題名をつけて 800 字以内で論述せよ。

書き込んだのは、発達障害のある3歳の息子を持つ母親だ。療育や支援を受けているにもかかわらず事態が改善せず、生きる希望を失っているという内容だった。

「普通に馴染（なじ）めるわけねえだろ」「一生人様に迷惑かけて生きていく息子とこの先一生謝罪しながら生きていく私」などと自暴自棄の言葉が並ぶ。

投稿に対して「愚痴の範囲に収まっていない」「母親失格」などの批判もあった。その一方で、「すごい分かる」「責任感がある故の苦しみ。本当に頭が下がります」などと共感したり励ましたりする声が寄せられた。

複数のサイトにも転載されて「育児ノイローゼやろ」「5歳ぐらいまではどいつもモンスター」などと意見が盛んに書き込まれた。

それにしても「バケモノ」という言葉は過激だ。そんな言葉を使った真意は何だったのか。

母親に連絡を取ると、32歳の会社員女性だった。3歳の長男は発達障害のうち自閉スペクトラム症（ASD）と注意欠陥多動性障害（ADHD）の診断を受けているという。

「障害がある子どもを育てるのは正直、大変です。うまくいかないことがあった日は追い詰められて一晩か二晩、心が闇をさまようことがあります。せめてどこかに吐き出す場所がないと困ります」と電話の向こうで訴えた。

「違和感」に気づいたのは、長男が1歳の時だ。子育てサークルに参加した際、長男はほかの子を押しよせ、その子が使っていたおもちゃを力づくで手に入れた。

「他者が目に入っていない。そこにいるのに認識していないのでは」

その後も長男は思い通りにならない時に手が出るのがたびたびあった。女性は「貸してー」「ごめんねー」と、長男の気持ちや行動を代弁して周囲に頭を下げた。

乳幼児健診で発達の遅れを指摘されることはなかった。発語も順調で、意思疎通はできる。ただ、コミュニケーションの問題は続いた。

「今後の入園や就学などの集団生活に向けて困りごとを減らしてあげたい」。そう願い、子どもの発達を支援する療育を受けさせることを決めた。医師の診断書が必要になり、精神科を受診した。

ところが保育園や幼稚園を入園前に下見すると、受け入れに前向きな園はほとんどなかった。「特別な対応はできません」「1年遅らせてはどうですか」。複数の園からこうした反応をされた後、ある幼稚園が快諾してくれた。

役所や病院、教育機関を奔走し、女性は環境を一つずつ整えていったが、一気に長男の行動が変わるわけではない。（中略）

SNS（ネット交流サービス）で悪態をついたことを聞くと「言うてはいけない言葉ということは分かっています」と女性は話す。

「でも、孤独を抱えて子どもを虐待するよりは、インターネットに吐き出して実際の日々を問題なく過ごせるなら、それもアリだと思います。投稿が一生ネットをさまようことになるのは自己責任。いつかはアカウントを消すか、投稿を削除するつもりです」と率直な思いを口にした。

最後に女性は「長男は、明るくて優しい性格なんです。ただ、思い通りにならないことがある時なんかに、他害の特性が前面に出て、障害を知らない人には『激しい子』と見られるのが悔しいんです」とこぼした。

（中略）

発達障害の理解啓発に携わり、川崎市を拠点にコンサルタント活動をしている橋口亜希子さん（53）は「投稿者さんはこういうふうには書かずにはいられないくらい、苦しかったんだと思います」と共感を寄せる。

（中略）

「虐待や暴言がいけない、というのは正論です。それを振りかざすだけでなく、母親たちがそこに至るまでの苦しみを理解して受け止めて寄り添う社会であってほしいと願います」

出典：山崎明子 「『どうすんだよこのバケモノ…』 3歳児療育、母の苦悩 SNS に本音、批判と共感」『毎日新聞デジタル』2025年1月15日 <https://mainichi.jp/articles/20250115/ddm/041/100/091000c> 最終アクセス 2025年9月23日（一部改変）

毎日新聞社提供